

令和2年度

聖坂学園 事業所・施設事業報告

オリブ工房
オリーブ・フードファクトリー
ナザレ工房（パン工房ナザレ）
シーダひのき工房
シーダ日野学園
オリーブの家
ナザレンホーム
眞砂ホーム
相談事業所ひじりざか
横浜市神之木地域ケアプラザ

理事会・評議員会

社会福祉法人聖坂学園

1. 施設運営について

令和2年度においても法人理念を基として、障害福祉分野では、施設入所支援、障害福祉サービス事業の生活介護、短期入所事業、共同生活援助事業を行いました。又、地域ケアプラザは地域福祉の拠点として、介護保険制度及び横浜市委託事業における各事業について、ほぼ事業計画に基づいて実施いたしました。

障害福祉分野では、この一年は新型コロナウイルス感染拡大のため、様々な活動に制限がかかってしまい、集団での行事等は中止をせざるを得ない状況となりました。緊急事態宣言が2度発令されましたが、その際には、密を避ける目的で、通所事業所では出勤する利用者を分ける分散出勤を行いました。パンやクッキーを販売している事業所では、利用者への感染、お客様への感染に対して定時での館内消毒など大変慎重に対策を実施し、販売を継続する事ができました。オリブ工房をバックアップ施設とするグループホームを新規設置する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、入居する建物の新築工事が遅れて次年度の事業として延期しました。6月には新規設置する予定です。各事業所共に、施設設備の老朽化等による不具合の修繕は、優先順位を考えながら進めてきました。相談事業所ひじりざかにおいて、指定特定相談支援事業を実施しました。ご家族の事情による緊急対応や体力の低下によるサービス再構築等の取り組みも行いました。

高齢者福祉分野では、新型コロナウイルス感染症対策として、早期に委員会を立ち上げ、対策（通所事業エリアへの立入制限、検温・消毒、記録、予防啓発）を実施しています。通所介護事業は、コロナ感染の予防の為、ご家族からの利用控えが多く発生し利用者が減少しています。地域活動交流事業は、多目的ホールの利用制限により活動団体の利用ができなくなりました。地域の方々が集まって活動する機会が多く減り、人間関係が薄れていくとの懸念が出されています。

2. 利用者支援について

新規利用者は法人全体で3名を迎え、その内新卒は2名でした。退所利用者7名で、その内2名はご病気で亡くなりました。

今年度は新型コロナウイルス感染症への対策と、その中での利用者の暮らしと活動をどう守り展開していくかということを最優先に考えて、バザーや作品展など地域に向けた行事や園外活動は自粛を余儀なくされました。

通所事業所では、2度の緊急事態宣言下において利用者の分散出勤を行いました。その間、在宅で過ごしている利用者には、電話連絡等によりサポートしました。

入所支援施設では、高齢化に伴って障害や疾病が重度化の傾向にあります。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ユニット活動始め様々な対応を進めました。

各ホームでは、緊急事態宣言が発令されている時には、公共の交通機関を利用するのガイドヘルパー利用が難しくなり、精神的に不安定になってしまう利用者もおりました。必要に応じてバックアップ施設の職員がサポートを行い、生活を支えました。

利用者の支援内容の研鑽と共に、この地域に潜在する障害福祉のニーズに応えるようソーシャルワーク力を高めていきながら、各事業所・施設は利用者に寄り添い、人権の尊重を基本にしながら、意思決定支援（自己決定、自己選択）を大切に支援しました。

3. 職員の状況について

職員は、異動職員9名、新採用・中途採用職員は合わせて34名で、退職者は40名でした。また、体調不良等で長期欠勤者が出ました。男性職員が2ヵ月の育児休暇を取得しました。

宿泊を伴う職員の確保が難しく、シーダ日野学園では支援員の欠員が続いていましたが、継続的に採用を進め年度末には充足しました。また、職員の健康増進を図る目的で、衛生委員会を毎月開催し、秋には「ストレスチェック」を実施しました。新規事業として2つのグループホームを新規設置する予定でしたが、人員確保が困難な状況から1つのホームは現ホームの移転・増員とする事業の見直しを余儀なくされました。

通所事業所で、職員の体調不良で休職になり復帰するまでに時間が掛かり、その後職員の確保も難しくなった為に、年度途中で法人内異動をして必要な職員数を確保しました。

職員の採用については、法人のホームページを活用し、インターネットを活用した求人だけでなく、人材紹介業者の活用なども行いました。障害福祉分野では、秋頃から少しずつ求人への応募が増えてきましたが、採用試験の途中で辞退され採用に繋がらない事もありました。法人一括ではなく事業所毎に求人募集を行い、年度末には必要な人員の確保はできました。新規事業のグループホームの職員については、年度を超えて職員採用を継続し、4月末には必要な人員の確保ができました。高齢者福祉分野では、専門職の確保が難しい状況にあります。

コロナ禍で、外部研修が中止になる事が多く、障害福祉分野では、サービス管理責任者研修や強度行動障害支援者養成研修等の研修を実施できずに事業所の運営に支障をきたす事態になっています。

4. 障害各事業所・施設活動報告について

(1) 利用者の入所・退所 人数報告

事業所 施設	オリブ 工房	オリーブ・ フード ファクトリー	ナザレ 工房 (パン 工房含む)	シーダ ひのき 工房	シーダ 日野学園	オリーブの家 (第1・第2)	ナザレン ホーム (第1・第2)	眞砂 ホーム (第1・第2)
定員 (名)	60	30	60	65	生活 70 入所 50	13	15	20
年度始 契約利用 (名)	58	20	59	65	生活 70 入所 50	13	14	20
入所 (名)	0	0	1 (新卒1)	0	2	0	0	0
退所 (名)	0	1	2	2	1	0	1	0
年度末 契約利用 (名)	58	19	58	63	生活 69 入所 49	13	13	20

(2) 職員の採用・退職・法人内異動報告 (パート職員も含む)

事業所 施設 (職員数)	本部	オリブ 工房	オリーブ・ フードファ クトリー	ナザ レ工房 (パン工房)	シーダ ひのき 工房	シーダ 日野学園	オリーブ の家	ナザレ ン ホーム	眞砂 ホーム	相談事業 所ひじり ざか	神之木 地域 ケアプラザ
採用合計	0	8	0	0	9	7	2	6	0	0	2
(正職)	0	4	0	0	7	7	1	2	0	0	1
(パート)	0	4	0	0	2	0	1	4	0	0	1
異動	0	3	2	1	1	0	1	1	0	0	0
退職合計	0	7	2	4	6	4	1	8	1	0	7
(正職)	0	3	2	0	0	3	1	2	0	0	4
(パート)	0	4	0	4	6	1	0	6	1	0	3
異動	0	2	1	3	2	1	0	0	1	0	0

法人全体 年度内中途採用も含む
 就任 34名 異動 9名
 内訳： 正職 22名 パート 12名
 退職 40名 異動 10名
 内訳： 正職 15名 パート 25名

(3) 各事業の実施件数報告

①生活介護事業年間実施日数 総支援日数 246日 (昨年度247日)

事業所・施設	オリブ工房	オリーブ・フードファクトリー	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用数	13,209名	4,284名	12,260名	13,463名
平均実利用者	51.9名 (51.3)	17.4名 (18.2)	50.2名 (51.1)	54.7名 (57.3)
定員に対して利用率(%)	89.6% (86.5%)	58.0% (60.5%)	83.7% (86.1%)	87.2% (88.2%)

②短期入所事業の利用人数及び利用日数

事業所・施設	シーダひのき工房	シーダ日野学園
延べ利用人数 (昨年度)	1件 (0件)	273件 (1,535件)

③日中一時事業 (通所施設のための事業)

事業所・施設	オリブ工房	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用件数	231件 (120件)	152件 (177件)	5件 (10件)

④送迎サービス (通所施設のための事業)

事業所	オリブ工房	オリーブ・フードファクトリー	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用人数	5,250件 (4,550件)	262件	3,499件 (4,741件)	11,968件 (12,998件)

5. 神之木地域ケアプラザ活動報告

①コロナ感染症対策について

事業については、コロナ感染症対策を徹底しながら、公益事業（包括支援センター事業、地域活動交流事業、生活支援体制整備事業）、介護保険事業（通所介護事業、介護予防支援事業、居宅介護支援事業）を実施しました。

コロナ感染症対策は、早期に委員会を立ち上げ、対策（通所事業エリアへの立入制限、検温・消毒、記録、予防啓発）を実施しています。現在、地域ケアプラザ職員にはコロナ感染者は出ていません。

②事業への影響

コロナ感染症で大きな影響を受けている事業は、通所介護事業と地域活動交流事業です。通所介護事業は、コロナ感染の予防の為、ご家族からの利用控えが多く発生し利用者が減少しています。地域活動交流事業は、多目的ホールの利用制限により活動団体の利用ができなくなりました。

地域の方々が集まって活動する機会が多く減り、人間関係が薄れていくとの懸念が出されています。

③職員採用状況について

令和2年度末に包括支援センターの専門職3名が退職し、2月に採用した社会福祉士も体調不良により3月末で退職となりました。専門職員が不足しており、業務負荷が現職員に重くのしかかっています。職員採用（ハローワーク、介護支援専門員会、神奈川県社会福祉士会、タウンワーク）を積極的に進めていますが、専門職は、他の地域ケアプラザ・事業所でも募集が多く採用が難しい状況にあります。

④介護保険部門

(ア)居宅介護支援事業

- 介護認定調査 5 件（前年比▲88 件）
- ケアプラン作成（要介護者）855 件（前年比+5 件）
- ケアプラン作成(要支援者)148 件（前年比▲32 件）

(イ)通所（予防通所）介護事業

- 年間利用者 合計：4,861 人（前年比▲894 人）
 （内要支援1・2）：288 人（前年比▲526 人）
 （内要介護1～5）：4,573 人（前年比▲220 人）
- 契約者数 合計：50 名（前年比▲12 人）

6. 事故報告・ヒヤリハット・苦情、要望解決

事業所 施設	オリブ 工房	オリーブ・ フードファクトリー	ナザレ 工房	シーダ ひのき工房	シーダ 日野学園	神之木 地域ケアプラザ
事故報告	14	4	8	28	34	1
ヒヤリハット	2	0	9	19	200	2
苦情・要望	0	1	0	0	2	1

事業所	オリーブの家	ナザレンホーム	眞砂ホーム
事故報告	4	6	4
ヒヤリハット	0	0	4
苦情・要望	1	0	0

①事故報告・ヒヤリハットの主な事由

骨折、薬：投薬忘れ、飲みこぼし等、通勤時のトラブル、一時所在不明、
 他害（物損、打撲・噛みつき）、破損（エアコンパネル等）、転倒（打撲、裂傷）、
 公用車自損、異物混入（パンに虫、砂）、職員のけが等

②苦情要望の主な事由

利用者支援に関する要望や相談、家庭生活における相談が主なものでした。利用者家族からの苦情では、第三者委員による解決を行いました。